

第 61 回近畿知的障がい者福祉大会 (併催 第 51 回一般社団法人奈良県手をつなぐ育成会研究大会) 全体会

主催者挨拶 近畿手をつなぐ育成会連絡協議会 会長 後藤 久美子 様



近畿知的障がい者福祉大会奈良大会が昨年の大阪府大会に続いてハイブリッド開催されることをうれしく思います。

医療の問題は生きることに直結します。障がいがあってもどの地域であっても、あたりまえの生活ができるよう取り組まなければなりません。知的・発達障がいのある人の医療充実に向けて、それぞれの育成会が考えるきっかけになることを願います。

中央情勢報告 一般社団法人全国手をつなぐ育成会連合会 会長 久保 厚子 様



- ①障害福祉サービスの動向（障害児サービス）
- ②障害者の居住支援
- ③障害者の相談支援等
- ④障害者の就労支援
- ⑤地域生活支援事業・意思疎通支援・療育手帳のあり方
- ⑥障害者虐待防止法の取組み強化
- ⑦成年後見制度の見直し議論 についてお話をいただきました。

「令和 6 年 4 月に「障害者総合支援法・児童福祉法の改正」及び「報酬改定」が実施されることになる。特に障害児支援について大きく変わる見込みです。成年後見制度については民法改正や新たな法律の制定を含めた抜本的な見直しが議論されています。」「本人を中心に据え、医療や福祉、介護、地域の中の見守り、助け合い、教育、みんなの支援、支え合いで本人の望む暮らしを支えていこう、今、いろんなところで制度の見直しがされている、制度が変わるときには、「こうかえてほしい」ということを言わないとダメ。本人の声に耳を傾け、本人の思いに寄り添いながら、代弁者として私たちがちゃんと声に出して届けていくということが必要。是非皆さんの声もお聞かせいただきたい。」

参加者の感想

- ・障害分野では各事業所の負担（緊急対応等）が大きいので、相談支援員等が家族との連絡及び対応を一緒に行える法整備をお願いしたいと感じた。各サービス事業だけでなく市町村単位でサービスを提供すること（拠点等）が大切だと感じた。知的障害のある人は、後見人制度を利用したいが受けてくれる方が少ないとよく聞きます。障害のある人がスムーズに利用できるようにする必要があると考える。又、利用する人にあつた後見人制度が大切と感じた。
- ・成年後見制度の見直しの議論がなされていることの話が一番興味深く、私達の思いが少しずつ形になっていきつつあることを嬉しく思った。

奈良医療物語



奈良医療物語は大会主題「知的・発達障がいのある人の地域医療の充実に向けて～コロナ禍でのリスタート 2022～」のもと、奈良県手をつなぐ育成会が 2015 年より取り組んできた医療問題と今後の課題についてまとめ、大会の問題提起としました。

問題提起①医療に関するアンケート調査の実施と、奈良県行政へ要望書提出。

問題提起②2020 年～2022 年コロナ禍でのリスタート、日常的に医療が必要な本人はもとより、新型コロナウイルス感染症や災害時にどのような医療体制で本人を護っていくのか。その声を形にしていくのが育成会です。

参加者の感想

- ・歯科と同様、全科専門の病院があれば良いと思う。特に一般の内科へ受診すると、知的障害者（児）が難しい点滴等しない所が多い。その為、回復が遅れたりすることがあると感じる。緊急時に保護者同席が必要となり搬送が遅れることが多々ある。特に家族がおられない場合は、だれが処置の同意をするのかと思うことが多い。その為、入所施設等での医療的ケアが避けられていることが多いと考える。

年齢	国調査(25年)		育成会調査(28年)	
	通院者率	継続受診率	継続受診率	総人数
総数（年齢不詳を含む）	39.0%	70.4%		928
0～4歳	15.6%			
5～14	16.4%	50.0%		10
15～24	12.8%	75.4%		65
25～34	15.7%	68.9%		148
35～44	23.6%	68.8%		188
45～54	35.0%	61.5%		83
55～64	51.1%	50.0%		13
65～74	67.3%	50.0%		4
75～84	74.3%			
84歳以上	80.2%			
（再掲）				
65歳以上	72.5%			
年齢不詳		50.0%		14